

養護学校における児童生徒の里山を活用した学習プログラムの開発

高鋤裕 箸本淳也 今川陽子

研究協力者：佐川哲也（金沢大学教育学部）

1. はじめに

最近の子どもたちは自然を相手にしたかかわりの経験が少なく、自然界の不思議さ、おもしろさ、心地よさ、また怖さを知らずに過ごしてしまっている。金沢市の中心部に近い金沢大学角間キャンパス内の「里山ゾーン」は極めて貴重な自然環境であり、子どもたちが存分に触れることで、自然とのかかわりを深める場となるものである。この「里山ゾーン」を基盤とし、1999年に発足した「角間の里山自然学校」では、広く自然体験・生活体験の場を開放し、これを活用した様々な学習プログラムが開発されてきた。また昨年、「地域の交流及び貢献」「自然体験及び教育」「環境との調和及び保全」という3つの理念に基づき、「金沢大学創立50周年記念館（角間の里）」が、里山活動の支援拠点施設として整備された。

養護学校における児童生徒の学習では、生活に身近な題材が扱われることが多く、中でも散歩に出かけたり、調理したり、物作りをしたりといった体験的な活動は関心をもって取り組むことができている。また、風を感じて心地よい表情をしたり、土や水の感触を存分に楽しんだりする児童生徒も多い。これらのことから、里山は児童生徒にとって興味をもてるものであり、有効な活動ができる場であると考えられる。そこで、様々な活動を通して自然を五感で味わい、人や物、場とのかかわりを広げていくことを願い、里山を活用した学習プログラムの開発に取り組むことにした。



写真Ⅰ 金沢大学創立50周年記念館
「角間の里」

2. 研究の目的

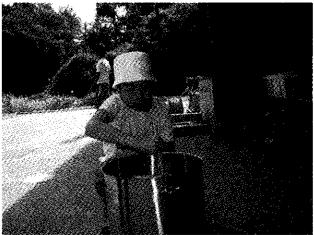


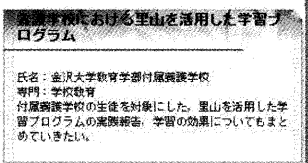

本校の小学部や中学部の児童生徒を対象に「角間の里」周辺の里山を活用した学習プログラムを計画実践する。その中で自然の豊かさを味わい、自然を楽しむ態度を育むためにはどのような活動をしたらよいのか探ることを目的とする。

3. 研究の方法

四季を通して「角間の里」周辺を活用した、体験的な学習プログラム（学部単位・クラス単位）を考え、実践していく。また活動した内容や、里山の四季の変化を、全校集会、掲示板「里山コーナー」、本校HP等を活用し、広げていくことで、より多くの人に金沢大学の里山を知ってもらおう。これらの実践をまとめ、児童生徒にとってより有効なプログラムや、里山が児童生徒に与える効果について探っていく。以上について、金沢大学助教授の佐川先生や、「角間の里」スタッフの方々と密に連絡を取り合い、連携しながら進めていく。

4. 学習プログラムの実践
(1) 年間の活動

時期	小学部	中学部	里山の春夏秋冬
春		①タケノコ掘り（4月） ②親子でタケノコ掘り（5月） 	①本校HPに「里山のページ」新設（5月） 
	①里山に行こう（6月） 〈遊歩道散策〉 	③畑作り（6月） 〈アワ、キビの苗植え〉 ④美術（6月）〈花瓶作り〉 ⑤七夕飾り作り（6月） ⑥角間の里を飾ろう（6月） 〈飾りつけ、野花を摘んで生ける〉 ⑦豚汁と虫取り（7月） 	②全校集会で「もうすぐ夏」を発表（7月） もうすぐ  なつだね！
夏	②「角間の里」を楽しもう（7月） 〈お話、かき氷、虫取り〉 	⑧親子で流しそうめん（8月） 	③校舎内に「里山コーナー」新設および更新（8月） 
	③親子里山体験（8月） 〈遊歩道散策、野外調理〉 	⑨畑の収穫 Part 1（9月） 〈アワ、キビ、トウガンの収穫〉 ⑩畑の収穫 Part 2（9月） 〈トウガンスープ作り、菜物の種まき〉	④全校集会で「秋だより」を発表（9月） 

秋	<p>④染め物学習（10月） 〈クズの葉・つるで 草木染め〉</p>  <p>⑤交流学習（10月） 〈ドングリ拾い、 ドングリゴマ作り〉</p> 	<p>⑪美術〈材料探し〉（10月） 〈ドングリ、小枝拾い〉</p> <p>⑫美術〈顔作り〉（継続中）</p> <p>⑬自由遊び（11月） 〈朴の木広場〉</p>  <p>⑭オリエンテーリング （12月）〈角間の里、 大学構内〉</p>	<p>⑤里山自然学校HPに ブログ掲載（9月）</p> 
冬	<p>⑥落ち葉で遊ぼう（11月） 〈落ち葉遊び〉</p> 	<p>⑮里山でお正月（予定） 〈門松作り〉</p> <p>⑯雪遊び&かんじきを 履いて散歩（予定）</p> <p>⑰ありがとう里山（予定） 〈ありがとうの気持ち を伝える〉</p>	

（2）目標

角間の里山に出かけて「里山、自然、人」と触れ合う

①小学部

- ・季節ごとに行われる様々な里山での活動に関心をもって取り組む
- ・自然に興味や関心をもち、穏やかな気持ちで活動に取り組む
- ・活動の中で、教師や友だちとのかかわりを増やす

②中学部

- ・いろいろな経験を積むことで、楽しみを見つけ積極的に活動することを増やす
- ・自然への興味・関心を高め、自ら発見していこうとする態度を養う
- ・人や物、場、自然とのかかわりを深め、生活の幅を広げる

(3) 小学部の実践

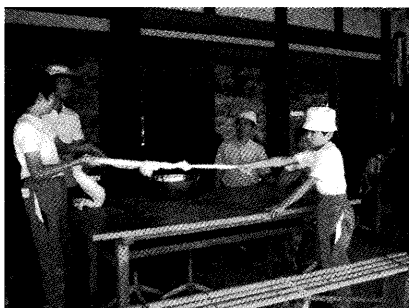
活動名	内 容	子どもの様子と成果
①里山に行こう (小学部全体) 6月14日	ア 遊歩道散策 (オリエンテーリングのように道沿いにポイントを設け、☆シールを集めながら歩く) イ 「天の川」作り (☆シールをみんなで大きな紙に貼る) 「角間の里」の見学	遊歩道は舗装されて歩きやすい道であったので、緑の木々の中を子どもたちは気持ちよさそうに、また坂道の上り下りにも元気よく楽しみながら歩いていた。☆シール集めは見つけるとうれしそうな子どもたちの様子が見られた。「天の川」作りも、☆シール貼りに熱心な様子が見られた。 「角間の里」の見学は、とても興味をもって1・2階を行き来したり各部屋を覗いたりと探検していた。
②「角間の里」 を楽しもう (小学部全体) 7月8日	ア お話タイム 昔話を2階の広間で聞く ・山姥に扮装した先生の素話 ・DVD「舌切り雀」の視聴 イ かき氷タイム 1階の土間でかき氷を作る ウ 散策タイム 「角間の里」周辺を自由に散策 昆虫や池のおたまじゃくし、ヤゴの採集	ア お話タイム 山姥がタケをカチカチ打ち鳴らしながら登場すると、子どもたちの目はもう釘付けで山姥の語りや動きに注目していた。また「舌切り雀」もよく視聴して、昔話の世界にひたっていた。 イ かき氷タイム 暑い日となったので、子どもたちは喜んでかき氷器の周りに集まってきた。かき氷を作った後、好きなシロップを選び、かけて食べた。 ウ 散策タイム トンボなどを追いかけて昆虫採集に夢中になったり、池のおたまじゃくしやヤゴをタモですくい、バケツに入れたりして学校へ持ち帰る子どもがいた。学校ではトンボなどは観察後放し、おたまじゃくしやヤゴは水槽に入れしばらく里山コーナーに展示した。 3つの活動を行ったが、どの活動も子どもたちがのってきた。また「お話」「かき氷」「散策」とメリハリある内容順で楽しめた。
③親子里山体験 (小学部3組) 8月9日	ア 遊歩道散策 イ 「角間の里」の見学 ウ 野外調理	保護者と「角間の里」の中を見学したり、周辺を散策したりすることで里山の良さを認識してもらった。また、みんなで野外調理をしたことで、親睦を深めつつ、里山でのひとときを楽しんだ。

<p>④染め物学習 (小学部3組) 10月7日</p>	<p>ア 路線バスを利用 イ 里山でクズの葉やつるを採集 ウ 布を染める 「角間の里」でお湯を沸かしてクズを煮込み、布を染める学習を行う</p>	<p>「角間の里」へ行く途中でクズを採集した。そのまま「角間の里」で水洗いしたり、煮込んだり、布を染めたりという一連の流れが途切れずにできた。煮込む時間が足りなかったが、学級の児童のペースに合わせ、ゆったりと活動できた。事前に学校周辺の草で染め物学習を行ったのもよかった。</p>
<p>⑤交流学习 (小学部全体と交流の味噌蔵町小学校4年生) 10月25日</p>	<p>ア 遊歩道散策 イ ドングリ拾い ウ ドングリのコマ作り</p>	<p>遊歩道を駆け上がっていくグループ、のんびりとドングリ拾いを行うグループと様々であったが、ともに里山の自然に触れつつ交流活動が行えた。</p>
<p>⑥落ち葉で遊ぼう (小学部全体) 11月16日</p>	<p>ア 落ち葉遊び ・たくさんの葉っぱをまき散らす ・ダンボール箱の中に入れ、葉っぱのお風呂遊び ・大きな木の絵を描いた紙に葉っぱを貼り付ける</p>	<p>雨のため「角間の里」の2階広間で行ったが、活動するにはちょうど良い空間であった。児童は3種類(サクラ・ヤマボウシ・カツラ)の落ち葉の匂いをかいだりして落ち葉の感触にふれつつ、次第にたくさんの落ち葉をまき散らしたり、ダンボールのお風呂でくちゃくちゃしたりと激しい活動を楽しみ始めた。最後には天井の梁に引っ掛けようと落ち葉を投げ上げる児童もいた。また、激しい活動に、後ろに下がって見ていた児童もいたが、落ち葉貼りになるとすすんで前に出て、紙に次々と貼っていた。</p>



写真Ⅱ-1
「おたまじゃくし見つけたぞ」

写真Ⅱ-2
「水を流すぞ」



写真Ⅱ-3
染め物学習



写真Ⅱ-4
落ち葉で遊ぼう

(4) 中学部の実践

活動名	内 容	子どもの様子と成果
①タケノコ掘り (中学部全体) 4月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めての里山 ・スタッフに、タケノコの見つけ方、鍬を使っての掘り方を教えてもらう 	タケの落ち葉を踏みしめながら、タケノコの小さな先を見つけた時はとても嬉しそうであった。慣れないながらも鍬で一生懸命掘りおこしていた。
②親子でタケノコ掘り (中学部1年) 5月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんもタケノコ掘り体験 ・一緒に里山で活動 ・スタッフから角間の里についての説明 	タケノコ掘りはお母さんの方が夢中になり、子どもたちと一緒に楽しいひとときを過ごしてもらうことができた。あわせて角間の里山がどんなところか知ってもらうこともできた。
③畑作り (中学部全体) 6月7日	<ul style="list-style-type: none"> ・角間の里前の畑を鍬で耕し、アワやキビの苗植え、じょうろでの水やり 	大きくなって収穫したらアワ餅やキビ団子にしようという思いを持ち、苗を一つひとつ植えていった。たっぷりの水が必要ということで、何度も何度も水まきをした。
④美術 〈花瓶作り〉 (*お花G)	<ul style="list-style-type: none"> ・里山のタケをのこぎりで切ったり、空き瓶を飾ったりして花瓶作り 	タケをのこぎりで切るのは初体験であった。空き瓶をビーズで飾ったり、ステンシルをしたりするのは慣れている活動であり、集中して行うことができた。
⑤七夕飾り作り (中学部1年) 6月23日	<ul style="list-style-type: none"> ・七夕飾りを作ったり、短冊にみんなの名前を書いたりする 	タケノコ掘りを振り返った。大きくなったタケで七夕をしようと話し合い、飾りを作った。
⑥角間の里を飾ろう (中学部1年) 6月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・山へ行き、のこぎりを使って一緒にタケを切り、持ってきた飾りを一人ひとり飾り付ける ・手作りの花瓶に、里山に咲いている草花を摘み、生ける 	花が好きな生徒が嬉しそうに野花を摘み、持って行った花びんにみんなで生け、「角間の里」の各所に置かせていただいた。木になっているクワの実ももいで味わい、大きなクズの葉っぱにおやつを盛りつけ、スタッフの方とも一緒に楽しむことができた。七夕飾りはしばらくすると、学生さんの短冊も増えていてつながりを感じた。
⑦豚汁と虫取り (中学部1年) 7月8日	<ul style="list-style-type: none"> ・材料を自分たちで準備しての豚汁づくり ・初めての野外調理 ・スタッフの方々にも配り、いっしょに味わう ・遊歩道散策と虫取り 	豚汁には、軒下につるしてあったタマネギや、畑で育っていたトウモロコシも加え、里山ならではの味も加えることができた。虫取りでは、クワガタムシを何匹も捕まえることができた。自ら虫網を持ってはりきって出かけていき、採取したクワガタムシで遊ぶ姿も見られた。
⑧親子で流しそうめん (中学部1年) 8月10日	<ul style="list-style-type: none"> ・山に行き、タケを切る ・タケをのこぎりで切り、ヤスリで磨いてつゆを入れる器を作る 	そうめんを流す長いタケは、学生さんたちがこの日のためにタケを縦に割って組み立てておいてくれた。そうめんを流すことにも面白さがあり、夢中になっていた。箸を

	<ul style="list-style-type: none"> ・ お母さん、兄弟、友だちと一緒に里山活動 	<p>入れてすくうのも楽しそうであった。おかずは畑でとれたキュウリやトマト、スイカにメロンと、ゆでたトウモロコシで、夏の自然の恵みをたくさん味わうことができた1日であった。</p>
⑨畑の収穫 Part 1 (中学部全体) 9月28日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 mほどになったアワを鎌で刈り取り、運んで束ねたり、キビをはさみで切り取ったりして収穫 ・ 大きくて重いトウガン harvested 運ぶ 	<p>慣れない手つきで、鎌に初挑戦した。切った長いアワの束を抱えて畑から「角間の里」まで往復して運んだ。同じ長さにそろえたり、束ねたり、余った茎を堆肥の場所まで運んだり、汗を流して作業に取り組むことができた。トウガンの大きさ、重さも実感できたと思われる。</p>
⑩畑の収穫 Part 2 (中学部全体) 9月30日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで収穫したトウガンを、スープにし、味わう ・ 収穫後の畑には、ハウレンソウやチンゲンサイなどの種まき 	<p>材料や用具を役割分担し、自分たちで里山まで出かけた(市内バス、徒歩)。トウガンスープも自分たちで調理したため、できあがりはとても満足そうであった。畑に畝を作り菜物の種まきも体験することができた。</p>
⑪美術 〈材料探し〉 (お花G) 10月3日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山の遊歩道を歩き、小枝やドングリ、マツボックリなどを見つけ、拾う 	<p>小枝、ドングリなど、拾っても良いことがわかったと、どの生徒もどんどん拾いだし、バケツや大きいゴミ袋がいっぱいになるまで拾った。</p>
⑫美術 〈顔作り〉 (お花G) 継続中	<ul style="list-style-type: none"> ・ 里山で集めた材料を使って、友だちの顔を作る ・ 自然の素材に触れる ・ いろいろな道具を使う 	<p>のこぎりで切る、ヤスリで磨く、はさみで切るなどの技術も、繰り返すうちに慣れて上手になってきた。全児童生徒分の顔を作り、モニュメントの完成をめざしている。</p>
⑬自由遊び (中学部1年) 11月4日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朴の木広場周辺で、自由に過ごす 	<p>特に活動内容は設定しなかったが、風を感じたり、自ら袋いっぱいドングリや木の実を拾ったりどの生徒もとても穏やかな表情でのんびり過ごすことができた。それぞれに自然を満喫しているようであった。</p>
⑭オリエンテーリング (中学部全体) 12月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学構内に設置された複数のポイントに立ち寄り、シールとお碗を手に入れる ・ 「角間の里」でトウガンスープを味わう 	<p>シールを4枚集めると「とうがん」という言葉ができあがり、最後に校長先生の研究室に行ってお碗と箸を受け取った。生徒たちはシールを集める、トウガンスープを食べるという見通しをもち、とても意欲的であった。ゴールの「角間の里」で、おにぎりとお碗とトウガンスープを味わった時の生徒たちの表情はとても嬉しそうであった。</p>

*お花G・・・お花グループ(学習グループ)

(5) 里山の春夏秋冬

活動名	内 容	子どもの様子と成果
①本校HPに「里山のページ」新設	里山の自然や活動の様子を本校HPに掲載してきた。	角間の里山自然学校のサイトにもリンクでき、情報を共有している。校外の人たちにも活動の様子を紹介することができた。
②全校集会で「里山の春夏秋冬」発表	写真や昆虫、植物を通して里山の自然を全校児童生徒に紹介してきた。	学期ごとに発表を行った。里山を訪れたことのない高等部の生徒もじかに昆虫や植物を見たり、触れたりすることができた。実物を提示したことで里山の自然をより身近なものに感じることができた。
③校舎内に「里山コーナー」新設及び更新	玄関フロアに掲示板を新設し、既存の里山掲示板を更新した。	活動の様子を記した学級通信等を掲示したり、里山で採れた昆虫や植物を展示したりすることができた。また、子どもたちが里山の素材で作った作品や絵を紹介している。校内外の人たちが里山の自然と触れ合う機会を設けることができた。
④里山自然学校HPにブログ掲載	角間の里山自然学校HPのブログに活動の様子や研究成果を掲載してきた。	活動ごとに更新し、角間の里のスタッフの方々との情報交換も行ってきた。いろいろな人からの意見や感想を聞くことができた。



写真Ⅲ－１
親子でたけのこ掘り



写真Ⅲ－２
角間の里を飾ろう



写真Ⅲ－３
親子で流しそうめん



写真Ⅲ－４
「どんぐり見つけたよ」

5. 個別の事例

小学部 5 年 N 男		
実 態		<ul style="list-style-type: none"> ・田中ビネー I Q 54 精神年齢 3 歳 11 ヶ月 (2002. 4. 10) ・2 組の教室で寝ころんでお絵かきボードに好きな絵を描いたりして、のんびり過ごすことが多い。自転車で校内のサイクリングロードをスピードを出してこいだりすることも以前はあったが、外遊びにはあまり出て行かない。 ・難しい言葉もよく知っていて、大人相手に話したりするが、基礎的な生活習慣に乏しい面もみられる。気になる児童がいるとわざとしつこくかかわったり、思いが通らないとパニックになり、物にあたったりすることもある。 ・遠足など校外の行事では活発に遊ぶ。サクラが散ったりする様子を見て、思わず「きれい！」と言ったりして、自然にも関心はある。
< 個別の指導計画 年間目標 > <ul style="list-style-type: none"> ・手先のことや苦手なことでも手助けを求めずに自分で努力してみる ・周囲の声や状況に対して気持ちを切り替えて対応できる ・友だちとのかかわりを広げる 		
ね が い	教 師	<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとに行われる様々な活動に関心をもって取り組む ・自然への興味や関心を高め、自ら発見していこうとする態度を養う ・活動の中で、教師や友だちとのかかわりが増える
	保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか自然に触れ合う機会はないので、里山の活動は子ども達にとっていいと思う
経 過		<p>里山の遊歩道では、友だちと競うように上って行き、周りの自然の様子にはあまり気をとめず、先へ先へと歩いて行った。</p> <p>「角間の里」の建物の中は、初め各部屋を見てまわっていたが、1 階の土間や 2 階の研修室での活動には落ち着いて参加できていた。2 回目の活動では、山姥の昔話はよく見聞きし、学校に帰ってからも山姥のまねをして、タケを鳴らして遊ぶ姿も見られた。6 回目の活動の落ち葉遊びでは、落ち葉をばらまく皆の様子を見て、次第に熱中して落ち葉を上には放り上げ、バラバラ落ちるのを楽しんだ。最後には天井の梁に落ち葉を引っかけようとがんばっていた。</p> <p>周辺の里山では 2 回目の活動でトンボを捕ろうとタモを持って走り回っていた。結局、先生につかまえてもらったが、満足そうに持ち帰った。また、夏の親子行事では、畑の灌漑用に設置されたタケの樋を見つけると、ジョウロに水を入れて運び、樋にせっせと流し込み、流れる様子を楽しんでいた。4 回目の染め物活動では、採取したクズの葉やつるを水で洗うことは熱心に取り組んでいた。</p>
考 察		<p>自然の中での活動は、のびのびとした様子が見られ、野山をよくかけめぐっていた。友だちがいることで負けじと活動に積極的になっていることも多かった。また、タケの樋でのジョウロ遊びのように自ら見つけた遊びもあり、自然に触れつつ楽しみを増やしていこうとする面も見られた。あれこれと活動を提示することだけでなく、自分で楽しみを発見するように時間と場所を設定してあげることも大切に感じた。家庭で「白峰行きたい」とか「富士山行きたい」とドライブ先を指定することもあり、自然の中での楽しみが広がっているように思われる。</p>

中学部 1 年 S 男		
実 態		<ul style="list-style-type: none"> ・ K I D S 総合発達年齢 2 歳 9 ヶ月 (2005. 4. 12) ・ その日の予定や内容、翌日の日程等、教師の話をよく聞き、見通しをもって活動している。 ・ 学校内のいろいろな場所や物に興味をもち、出かけていったり、好きな言葉、友だちの名前などを書いたりして楽しんでいる。 ・ 予定の変更や見通しがもてない活動には、気持ちが不安定になり、落ち着きがなくなる。 ・ 自分の行動についての叱責・禁止などの言葉によりパニックになることがある。 ・ 教師の話をよく聞いているが、要求を言葉にすることは少ない。
< 個別の指導計画 年間目標 > <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな人や物、場、自然とかかわりながら、学校生活を楽しむ ・ 言葉でのやりとりを増やす 		
ね が い	教 師	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人や物、場、自然とのかかわりを深め、生活の幅を広げる ・ 場に応じた言葉が自発的に出るような場面が増える ・ 自然への興味・関心を高め、穏やかに過ごす
	保 護 者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段のあわただしい生活から離れて、自然の中でゆったりと過ごし、自然を全身で感じる ・ 自然の中で見た物、感じた事などを通して、心を落ち着かせる
経 過		<p>初めは、慣れないためか、積極性は感じられず、どちらかというとスタッフ、教師、お母さんの声かけで活動に参加しているという感じであった。しかし‘里山を飾ろう’の頃から、自ら大好きな水遊びを始めたり、里山のパンフレットを集めたりするほか、クワガタムシに興味を示して触ったり、コップの水に浮かべて遊ぶ(水を飲ませようとしていた?) など、好きなことを見つけて楽しむようになった。夏には、自ら虫取りの網を持って池のおたまじゃくしをとろうとしていたり、自分で捕まえてきたクワガタムシで遊んだりする姿をよく見るようになり、散歩に出かけるとアリを捕まえて遊ぶことなども出てきた。夏休みにはクワガタムシを家に持ち帰り、進んで世話をするまでになった。秋の‘畑の収穫’は歩いて里山まで向かったのだが、前日から楽しみにし、先頭をととてもうれしそうに登っていった。10月、朴の木広場‘自由遊び’では、自ら、ドングリをととてもうれしそうに拾いはじめ、虫や木の実なども含め、袋いっぱいになるまで集め、学校に帰ってくることができた。</p> <p>道具については、鍬、のこぎり、ヤスリ、鎌などを使ってきたが、繰り返すごとに使い方も覚え少しずつうまく扱えるようになっていった。</p> <p>保護者の方も飛び入りで参加してくれたこともあり、「自然の中の活動は素直に楽しめるのでとても充実した日になりました」という感想をいただくことができた。家庭でも、車の信号待ちで「とんぼおった!」と言ったり、紅葉の写真を見て「ここ行きたい」と伝えてくれたり、「今まではなかったことなので、びっくりした」という言葉もいただくことができた。</p>
考 察		<p>昨年まで虫や自然には興味を示していなかったが、自ら虫を捕まえて楽しみ、ドングリや紅葉に興味をもつことができるようになったのは、里山での活動がきっかけになったと考えられる。また里山では常に穏やかな表情をしていたことをはじめ、自由遊びでドングリ拾いをしていたときには、いつも言っている大好きな言葉に加え、「あっ、みつけた!」皮をむきながら「かわをむく」など、状況にあった言葉をいくつも発していたことは、気分もよく自発的な言葉が出やすい状況であったと考えられる。保護者の願いが‘自然を全身で感じてほしい’ということからも、本生徒には、まだまだ里山を存分に体験させてやりたいと考える。</p>

中学部 1 年 T 男		
実 態	<ul style="list-style-type: none">・ K I D S 総合発達年齢 2 歳 9 ヶ月 (2005. 4. 12)・ 発語はないが、教師の声かけをほぼ理解し、着替えや教室移動も素早く行っている。・ 見通しがつかなくなったり、授業の変更があったりすると気持ちが不安定になり、パニックを起こすことがある。・ 教師や友だちへの積極的なかわりは少なく、一人で遊んだり過ごしたりすることが多い。・ 水や砂遊び、自転車乗りが好きで、自分からくり返し取り組み、楽しんでいる。・ こだわりの行動を止められると、怒ったり泣いたりすることがある。	
<p>< 個別の指導計画 年間目標 ></p> <ul style="list-style-type: none">・ 身辺処理など自分でできることを増やす・ したいことや好きなことを見つけ、自分の思いを伝えようとする・ 中学部の生活に慣れ、落ち着いて活動する		
ね が い	教 師	<ul style="list-style-type: none">・ いろいろな経験を積むことで、楽しみを見つけ、自主的に活動することを増やす・ 活動の中で、自分の思いを伝えようとする・ 自然への興味・関心を高め、穏やかな気持ちで活動する
	保 護 者	<ul style="list-style-type: none">・ 自然と触れ合い、季節を感じ、穏やかに過ごす・ 活動を通して体力、忍耐、技能を高める
経 過	<p>初めは、教師の声かけを受けて活動していた。落ち着いていたが、積極的に活動することは少なかった。‘親子でのタケノコ掘り’は、お母さんの髪の毛を触ったり、匂いを嗅いだりすることで安心して参加していた。うまくできない活動があると視線をあわせたり、手を引いたりして教師に助けを求めてきた。‘里山を飾ろう’では、友だちが水遊びをしている様子を見て、大好きな水遊びを始めた。山で切ったタケをしっかりと担いで運んでいた。7月の‘豚汁と虫取り’では、自分から水遊びを始めた。また、捕まえたクワガタムシに興味を示し、手や頭にのせたりあごを触ってみたりしていた。自主的に活動することが少しずつだが増えてきた。‘畑の収穫’や‘材料探し’では、来るまでに泣いたり、怒ったりしていたが、里山での活動が始まると徐々に落ち着いた。‘自由遊び’では、風を感じたり、遠くの景色を眺めたりして嬉しそうに過ごしていた。終始、よい表情で体を揺らし、声もよくでていた。</p> <p>道具については、鋏、のこぎり、ヤスリ、鎌等を教師や保護者の支援を受けて使った。保護者も、T 男といっしょに活動を楽しみ、自然とのかかわりや親子での共同作業ができたことを喜んでた。また、里山の活動をきっかけに家庭でも野菜の皮むきや種とりを手伝ってくれるようになったと話していた。</p>	
考 察	<p>当初、教師の声かけを待っていた T 男だが、慣れてくると、自ら水遊びを始めようようになった。到着前後に気持ちが不安定になることも増えてきたが、里山に着いてからは穏やかに活動している。こちらからの活動をあえて準備せずに観察した‘自由遊び’では、T 男の嬉しそうに過ごす姿を見ることができた。風を感じたり、ドングリが落ちる音を聞いたり、遠くの景色を見たりしているだけだったが、声もよくでて終始、よい表情をしていた。</p> <p>里山の活動はより家庭生活に密着したものであるので、家庭での成果も増えてきた。手伝いも増え、親子のかかわりを深めることができた。今後もいろいろな経験を積むことで楽しみを見つけ、自主的に活動する姿を期待したい。</p>	

6. まとめ

(1) 小学部

今年度は、初めて里山を訪ねる児童が多かったが、事前に話し合い配慮することで落ち着いて参加することができた。感じ方は様々ではあるが自然の中の居心地良さを楽しんでいる姿が見られた。また「角間の里」は、ゆったりとかき氷作りや染め物学習ができ、かつ落ち葉遊びのようにダイナミックな活動も気兼ねなくできる環境であった。小学部全体での活動は、友だちを意識し、刺激を受け盛り上がったが、集団としては大きくなるので、場所や内容、時間に制約された面もあった。クラスで行った活動は小集団で、児童のペースで比較的ゆとりをもって行動できたこともあった。あまり活動をきめ細かくせずに、十分自然にひたって、自分から遊びを見つけるような設定も必要であった。

(2) 中学部

今年度、様々な活動を体験することで生徒たちが自然に目をむけ自ら行動を起こすことが増えてきた。また、里山では穏やかな表情で過ごしていた。保護者から「自然の中でゆったりすごし、自然を全身で感じてほしい」という声が複数聞かれた。集団としては、中学部全体、中学部1年、学習グループで活動を行った。畑の収穫、作業などは中学部全体で取り組み、友だちを見て自分の動きをつかんだり、みんなで達成感を味わったりすることができた。逆に中学部1年、学習グループだけの場合は少人数であり、気軽に行くことができ、より個に目をむけることができた。今年度は「角間の里」を拠点として場や人、物とのかかわりを広げることができた。今後は更に活動を広げ、新しいかかわりを期待したい。

(3) 春夏秋冬

掲示板や里山コーナー、全校集会を通して、他学部の児童生徒や職員、来校者に里山の自然を体感してもらったり、活動の様子を紹介したりすることができた。また、ブログや本校HPを通して、広く校外の人にも紹介することができた。いろいろな人からご意見を頂いたり、家庭や他の学校より里山を活用してみたいという問い合わせもあったりした。少しずつだが、里山での活動の様子や成果を校内外の人たちに伝えることができたという手ごたえを感じている。今後も活動の様子や里山学習の魅力を伝えるとともに、高等部を含め、全校一貫した里山の活用の仕方を考えていきたい。

7. 次年度に向けて

今年度、様々なプログラムを行ってきたが、「角間の里」や周辺を初めて利用した教師や児童生徒が多く、回数を重ねることによって活動内容や準備物など明確になってきたことも多かった。遊歩道の充実、水場の設定など周辺の環境整備についての意見も多く、今後要望していくとともに、周辺整備に協力していきたい。

次年度は、「角間の里」に四季を通じて定期的に出かけ、山・森・竹林・谷・川など里山の自然そのものを感じるプログラムを更に検討し、自然のよさを感じることが出来る活動プログラムの開発を継続していく予定である。また、家庭生活でも汎化し、余暇などに活かせるよう、親子での里山体験についても充実させたいと考えている。更に大学の佐川先生をはじめ「角間の里」スタッフの方々と連絡を取り合い、活動の理解と協力を得るだけでなく、より里山と積極的にかかわれるよう「角間の里山自然学校」の里山メイトとの連携を考えている。校内外の人に里山のよさを伝えていくことで、里山に対する理解を広げていきたい。